

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>1 子どもたちの命と安全を守るために (40分)</p> <p>全日本民主医療機関(全日本民医連)の保育部門の世話人で保育士として30年以上働く長谷川清美さんは「岸田首相は『異次元の子育て支援』とうたうのと同時に、軍事に莫大な予算をかける。これでは異次元の子どもの育ちは不安です。軍事費より保育士を一人でも多く増やすためにおかねを使ってほしい」と訴えています。子どもの命と安全を守るためにも、発達を保障するためにも、配置基準の改善は喫緊の課題です。</p> <p>こども・子育て支援制度が始まった2015年以降、保育施設等で重篤な事故が増えています。日本では、児童福祉施設の最低基準は75年前の1948年につくられたもので、当時の厚生大臣が「最低基準は常に向上させるものとする」としてきたものです。</p> <p>「子どもたちにもう一人保育士を！実行委員会」が集めた保育士の声は「国の保育士配置基準では、子どもの命と安全は守れない」で、その場面は「地震、火災など災害時」が84%、「お散歩時」が60%などです。また、同実行委員会の保護者向けの調査では、現在の日本の配置基準について、「とても不足」「不足」「どちらかといえば不足」と合わせて98%です。</p> <p>内閣府の「教育、保育施設等における事故報告集計」によりますと、認可保育所での重篤事故が2015年に344件で2021年には1191件になっています。その背景には、長年変わらない保育士の配置基準があります。1,2歳児は6対1で50年以上、4,5歳児は30対1で70年以上変わっていません。また、保育の長時間化で保育士の仕事量は格段に増えています。その上、政府の財政措置は僅かなうえ、厳しい要件が課せられています</p> <p>保育は命と安全を守るためだけではありません。一人ひとり発達段階と個性の違う乳幼児期の子どもの発達を保障する質の高い保育が求められています。</p> <p>以下質問します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 本市における事故例と件数について (2) 市の配置基準および他市の状況について (3) 会計年度任用職員の勤務実態について (4) 職員の健康状態と早期退職者について (5) 専門性を高める研修について (6) コロナ禍の状況について 	市長